

# 世界一を目指す選手の入社で 従業員の意識が高まり、技術力も向上

社名 八千代工業株式会社（やちよこうぎょう）  
所在地 埼玉県狭山市柏原393  
電話 04-2955-1211  
代表者 山口次郎 代表取締役社長  
従業員 875人



HPIはこちら

**八千代工業**  
埼玉県狭山市



▲八千代工業は国内外に生産拠点や研究所を持ち、売上収益も国外が8割以上を占めている

土田和歌子選手が八千代工業の所属となったのは2014年10月だが、同社はそれ以前の13年からパラスポーツと関わっている。同

## 社会福祉と新技術の開拓が 車いすレーサー開発に進展

自動車の機能部品の開発・製造と、樹脂部品・補修パーツの製造を行っている八千代工業には、夏と冬のパラリンピックで金メダルを獲得したパラアスリートの土田和歌子選手が所属している。東京パラリンピックではパラトライアスロン競技で金メダルを目指す土田選手に、同社は練習に集中できる環境だけでなく、自社が持つ技術を生かして開発した陸上競技用車いす（車いすレーサー）も提供し、競技生活をサポートしている。

社の常務取締役開発本部長で、陸上競技部の顧問も務める安田哲さんは、パラスポーツと関わるようになったいきさつについてこう説明する。

「最初の関わりは、パラ陸上競技用の車いすレーサーの開発でした。将来につながる新しい事業を始めようということになり、そこでキーワードになったのが社会福祉への貢献と、環境への配慮を念頭に置いた、製品の軽量化技術です。そこから何か新しいものを生み出そうと考えてきました」

八千代工業の親会社である本田技研工業（ホンダ）のグループ企業に、1981年に大分県で設立されたホンダ太陽という特例子会社がある。ここでは多くの身体障がい者が働いており、八千代工業の技術者たちは開発のアイデアを得るためにそこを訪れた。

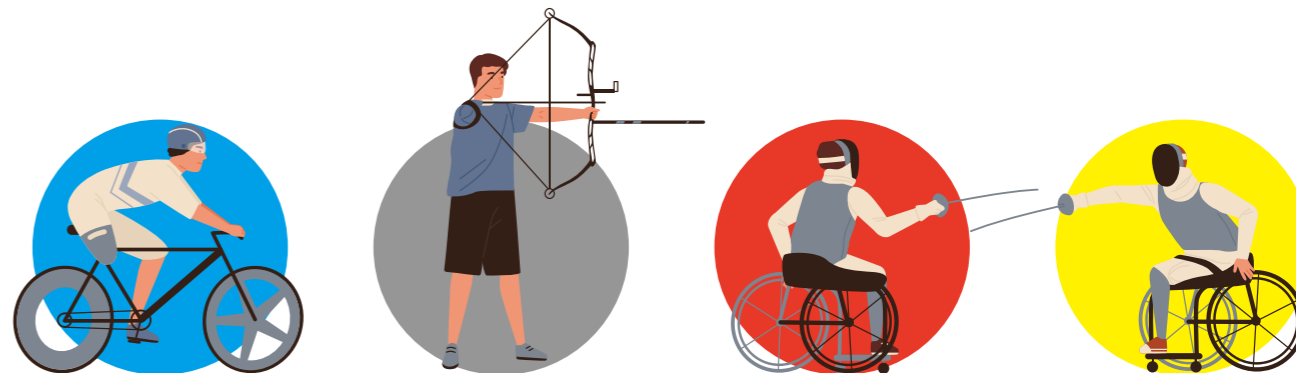
「本田技術研究所が2000年からホンダ太陽の方々と協力して車いすレーサーの開発を始め、フルカーボンの世界一軽い車いすレーサーを完成させていました。ホンダ太陽の従業員の方々がそれに乗って車いすマラソンに出場していたのですが、この製品の量産化の面で困っていました。そんな中、八千代工業としても、これから社会福祉への貢献と軽量化に取り組もうとし

ていたところで、軽量化の面では先端技術のカーボンを使った商品開発ができるということもあり、開発と量産化に協力していくことになったのです」

そこで、製品設計・生産技術・試作の関係者を中心に社内チームを結成し、13年4月に正式に量産開発がスタートした。目指すは16年リオパラリンピックで、それに向けた新しい車いすレーサーを開発することだった。当時、カーボン素材は航空機の機体に多く使われ、貴重だったこともあり、欲しいからといって簡単に手に入るものではなかった。しかし、本田技術研究所が航空機の開発をしていたということもあり、そこからカーボン製品の技術を学んでいくことができたという。1年後の14年7月、フルカーボンモノコックの車いすレーサー「極（KIWA MI）」を完成させた。

## 製品の完成度を上げるために トップパラアスリートを招く

そうして出来上がった完成品第1号に乗ったパラアスリートたちからは「アルミ製よりフィット感がずっと高い」「軽く、しかも路面の凹凸をいなしてくれる」「特に下りのスピードが速い」など、高い評価



## 特集1

# パラアスリートを支える “応援企業”が 元気な理由がある

いよいよ来年に迫ってきた2020年東京オリンピック・パラリンピック。過去の大会以上にパラリンピックにも注目が集まっている。そこで、20年に開催する東京オリ・パラを1年後に控えてパラアスリートやパラスポーツ活動をバックアップする“応援企業”の取り組みと狙いに迫った。

